

筑波大学&マレーシア工科大学教育研究交流プログラムによる筑波大学生来訪

筑波大学&マレーシア工科大学教育研究交流プログラムにより、筑波大学から5名の学生（下城彩（生物学類1年）、神田倫花（生物資源学類3年）、町田峻太郎（環境バイオマス共生学専攻1年）、牧下彩乃（生物資源科学専攻1年）、岸野友子（生物科学専攻1年））がMJITに来訪した。プログラムは移動日を含む2015年3月13日（金）から3月20日（金）であるが、クアラルンプール（KL）市内到着が金曜夜のため、MJITには週明け16日の訪問となった。開講式



KL オフィス前にて（左から杉浦教授、町田、岸野、神田、下城、岩本（文責）、Azma）

は、体調不良で参加出来なかった牧下氏を除く4名が参加し同日9:00から第4会議室で行われた。岩本准教授の挨拶と諸注意の後、参加者から自己紹介と本プログラム参加の意気込みが語られた。その後、本学のKLオフィスに移動し、杉浦教授からMJITの設立の経緯や日本とマレーシアにとっての意義、学生による海外交流の重要性等が語られた。開講式の後には、参加者自身の計画に沿って、プログラムが進行した。

3月19日（木）にはマラヤ大学に日本学術振興会アジア研究教育拠点事業で京都大学から派遣中の坂井伸光博士を訪問した。博士は、マラヤ大学構内にある池の浄化プロジェクト"Water Warriors UM" (<https://www.facebook.com/umwaterwarriors>)を牽引しており、今回の訪問ではメンバーによる活動紹介と現場訪問が行われた他、筑波大学学生および京都大学の研修プログラムで訪問中の大学院生による発表も行われ、3大学による異分野研究交流が行われた。また午後にはプロジェクト顧問のハリム教授の案内でポトラジャヤの湿地や植物園を訪問した。

閉講式はMJITで行う予定であったが、KLへの帰還が遅くなったため、コーラスホテルのロビーで行われた。参加者から今回のプログラムの成果が発表された。マレーシアの自然や文化、大学環境など様々な観点からの興味深い報告であった。その後、杉浦教授等に見送られ帰国の途に就いた。近年では珍しいオーバーブッキングによる搭乗便の変更というトラブルはあったものの、参加者から帰国の報告があり、プログラムは無事終了した。



開講式での杉浦教授挨拶
(KL オフィス内)



マラヤ大学池浄化プロジェクトの説明
(坂井博士、中央)



閉講式成果発表様子
(コーラスホテル)